

富士市立高等学校 学校運営協議会		第13回	会議要旨 (平成29年度)
開催日 平成29年6月7日 水曜日 開 会 18時00分 閉 会 20時10分	会議場 富士市役所 8階 第二会議室		
出席委員 【委員】 工藤千麻琴 櫻井 正人 塩田 真吾 鈴木 愛美 土屋 悦美 畑 隆 畑 裕美 村田 猛 矢崎 進 山田 雅彦 岩田 享 味岡 俊雄 石村 俊樹 【オブザーバー】 安倍 徹 沼里 智彦 太田 桂			
開会			
委嘱状・辞令書交付及び新任委員自己紹介			
○教育長あいさつ ・富士市立高等学校、そして（将来）富士市を担う子どもたちのためにお力添えをいただきたい。 ・一生懸命やればやるほど課題が出てくる。何もしないところからは課題は出てこない。悩みは出てこない。富士市立高等学校も、毎年さまざまな課題を抱えてきているのではないかと、前向きに捉えて、是非職員一同頑張ってもらいたい。 ・コミュニティスクールについては、富士市内の小中学校においても、今年新たに5つの小中学校を指定することとなった。これまでは1つの小学校だけだったが、合計で市内に6校の小中学校で指定することができた。これは市立高等学校が先陣を切って進めてくれているおかげである。 ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、コミュニティスクール、学校運営協議会というものが、努力義務化されることとなった。 ・富士市立高等学校では校長以下教職員が一生懸命やってくれている、いろいろな課題のある中にもかかわらず、一生懸命自分の意見を言ってくれている。どんなことを言われても、めげる学校ではないので、是非新しい視点で委員からの意見をいただきたい。			
副会長の指名 ・会長より副会長を指名			
○会長あいさつ ・トヨタの言葉として、「ものづくりは人づくり」という言葉がある。先日アメリカ			

における中心的な工場であるケンタッキー工場に行ってきて、そこでの様子を色々と見聞して、(先の言葉の) 重要性を改めて感じた。この言葉は学校教育の現場にも通じる言葉で、教育こそは国にとって重要な営みではないかと思うし、そしてまた、この富士市立高等学校は、新しい教育を先進的に切り開いていきたいと私は感じている。是非各委員の忌憚のない意見をいただきながら会を運営していきたいと思うので、協力の程お願いしたい。

議事の概要

○学校からの報告

◇第4期生の進路結果について

- ・進学先として最も多いのが、4年制大学への進学で、富士地区の他の高校と同じように、関東、東京を中心とした地方への進学志向がある。
- ・専門学校への進学者もある程度の数があり、近年医療系、看護系への進学が多い。
- ・4年制大学の進学率が増加傾向にあり、特に女子生徒にその傾向が強い一方、短期大学への進学は減少している。
- ・就職については40人程度ということで、ここ数年は推移していて、金融機関への就職、一般職又は事務職への就職が増えている。

◇学校生活について

- ・本校ではSNSによる不適切な発信については、厳しい対応を行い、その適正化を図っている。
- ・交通事故が4月から5月までで4件あり、交通ルール無視、運転の未熟さというところが主な原因であった。
- ・本校生徒は、学校内では非常におとなしく、言われたことはよく守るという特徴がある。

◇生徒の様子について

- ・昨年度のカウンセリング室の利用状況について、延べ人数では76名の生徒が利用した。
- ・特別支援に関しては、個別の支援計画を立て、特別支援委員会を開き、支援を継続している。病理が感じられる生徒に関しては、専門機関と連携をとっている。
- ・本校はカウンセラーが週2回来ていて、比較的早めの対応ができていると思う。昨年度は、生徒だけでなく保護者の相談もかなりの件数があった。
- ・特別支援の生徒に関しては、中学校から情報を得られれば、適切な対応につながれると考え、富士市・富士宮市の高校では、中学校に対し指導記録のある生徒の情報を高校に引き継ぐよう依頼の文書を送付したが、中学校としても、保護者の承諾を得ないとなかなか書類をオープンにできないということもあり、うまくいかなかった。
- ・担当者として家庭との連携がうまくいくと、生徒への支援がスムーズになるので、家庭の影響は大きいと感じている。

◇部活動の結果と広報活動の取組状況の報告

- ・富士市立高等学校においては、平成29年度、運動部が15、文化部が17、そ

れと生徒会執行部ということで、生徒は必ずいずれかの部活動に所属するという
ことになっている。

- ・平成28年度は、陸上部で秋山さん、朝日さん、眞澤君、またチアリーダー部が
全国高等学校ダンスドリル選手権大会出場、そして英語部の小西詩音君は、全商
の英語スピーチコンテストで最優秀賞、全国の第1位ということで文部科学大臣
賞を受賞するという素晴らしい成果を挙げた。報道部も、全国高等学校総合文化
祭の広島大会に出場している。
- ・平成29年度は、陸上部、女子テニス部、柔道部、剣道部、弓道部、サッカー部、
ソフトテニス同好会の8つの部活等が地区予選を突破して、県大会に進出し、ま
た、柔道部は竹川さん、吉田さんと女子団体が、陸上部では延べ20人の選手が
東海大会へ、ゴルフ部の竹入君も関東大会への出場を決めている。更に女子柔道
の竹川さん、チアリーダー部及び報道部が全国大会への出場を既に決め、陸上部
も全国大会への進出が期待されている。
- ・昨年度学校運営協議会において、できる限りこまめに地域の中学校、中学生にア
ピールした方がいいのではないか、という意見があったことに対応して、部活動
の結果、最近の学校の様子などをまとめて、「富士市立高校だより」というもの
を作成し、市内の中学3年生全員に中学校を通して配布した。
- ・学校見学会、一日体験入学、学校開放日の予定等についても、各中学校に掲示物
として配布した。

学校からの報告について意見交換

(質問・意見等)

・富士市立高等学校ができてから6年が経過し、保護者の中でも富士市
立高校に対するイメージができてきた中で、保護者からはどのような
進路に対する要望が多いのか？

(回答)

・親として手元に置いておきたいという意向が強く、特に女子生徒の保
護者にその傾向が強い。このため、地元志向、できれば県内での進学、
就職を希望する傾向が強い。

(質問・意見等)

・就職と進学に関してここ数年で変化はあるか？ざっくりとした傾向で
構わないので聞かせてほしい。

(回答)

・就職に関しては、製造業がメインになっているが、去年から事務職・
一般職といった就職が増加してきている。

(質問・意見等)

・SNSへの不適切投稿に対する厳罰化についてももう少し詳細に説明し
てほしい。

(回答)

・現在SNSが非常に問題になっており、グループラインやツイッター
等で写真の掲載やコメントの掲載が誹謗中傷に当たったりしている。

	<p>生徒は何の気なしに、悪気もなくやってしまうことが多く、こうした事案についてオリエンテーションや説明会やN T Tを呼んでの講習会等を何度も説明しており、それにも関わらずやってしまった生徒に対しては、このままでは学校に居られなくなる旨を説明する等、厳しい指導をしている。</p>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的にではなく、いきなりそうした指導になるのか？
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・本人及び保護者と話をし、このままでは学校に居られなくなるという話をする。しかし、当然学校には戻りたいという話をしてくるので、そこでどのような形で戻るのかということと十分に話し合っ、決まりは絶対に守ってもらうことを約束して学校に復帰する。 <p>今年度も他の生徒の写真を無断で掲載してしまった事例があった。本人には全く悪意はなく、何の気なしにやってしまったようである。この後、本人にはこうした行為は非常にいけない行為であると諭し、保護者を呼んで指導した。</p>
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・他校と比較しても、厳しい対応である。どうしてこのように厳しい対応をしているのか？
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSによる不適切な情報発信については、被害者側からすれば、不当な個人情報の流出であり、重大なことである。こうした事象を放置しておく、いじめにもつながっていく可能性がある。学校では、いじめは絶対に許さないという態度を示していかないと、生徒はどんどん水面下で行動をエスカレートさせていく可能性がある。厳格な対応をすることによって、学校の考え方も生徒本人及びその保護者に理解してもらえるようになる。この問題は、学校が生徒、保護者と十分に話し合い、できる限り早い時期に、学校と家庭との両面で指導していきることが肝要であると考えている。
(質問・意見等)	<ul style="list-style-type: none"> ・市立高校のアンケートで、生徒の満足度、意識の高さなどで驚異的な数字が示されている。200人もの生徒のアンケートで、その数字が90%を超える数字というのは、普通はまず考えられない。通常では、80%を超えていれば、子どもたちに浸透しているという判断をするが、市立高校でのアンケート結果は本当に驚異的な数字で、例えば「日常生活の中で「知りたいな」と思うことや「不思議だな、なぜだろう」と思うことがある」というのは、まずは最初の入口のところで、こうした気持ちを持てる子どもが91.1%もいることや、「人の役に立てる人になりたい。」ということと97.3%もの生徒が答えるとか、「異

なる立場や考え方を受け入れ、理解しようと思う。」というのが93.8%にも上っている。また「お互いの良いところや違いを認め、協力することができる。」というものも90%を超えている。これらの結果は、富士市立高等学校が今までやってきたことの積み重ねの成果であり、富士市立高校は一般的な課題は既にクリアーし、次の段階に来ているのではないか、という印象を受ける。このため、こうした結果を「市立高校だより」等でどんどん発信していくべきだと考える。例えば1か月に1回ぐらい、こういう指標を内外に示していけば、大変なインパクトになる。この90%を超えている項目が5つもあって、子どもたちは3年間市立高校で勉強するとこういう状態になるということ地域にアピールしていけばよい。

○平成29年度学校経営計画について説明と承認

◇平成29年度学校経営計画について説明

- ・富士市立高等学校の学校としての目標である「未見の我を探そう」という言葉は、額に入れて、校長室、各教室等に掲げられている。そして「未見の我を探そう」の中に挨拶の励行、服装を正す、学びの心を育てる、夢をカタチにする、この4つが具現的な教育目標の柱となっている。
- ・平成29年度を取組として「魅力ある事業実践と授業力の向上」、「高い志のもと進路実現のための進路啓発及び実績」、「安心安全な学校づくり」、「広報の強化」の4つを追加した。
- ・富士市立高等学校は、就職あり、専門学校あり、短大あり、大学ありと近隣の他の高校と比べて進路先がバラエティに富んでおり、非常に進路指導が難しい学校となっている。
- ・平成28年度に学校運営協議会で、広報活動の強化について指摘を受けたことから、本年度「広報の強化」ということで新たに柱を建てた。
- ・本校生徒の平均2時間以上の家庭学習時間の確保を目指して、「毎朝の学習時間調査実施」として成果目標に追加した。大学進学する生徒のための家庭学習時間ではなく、就職も専門学校も短大も資格取得についても、本校卒業後社会人となっても生涯学ぶということで、本校では、学習時間の定着と充実ということに力を入れている
- ・授業を有意義な出口につなげていくということで、大手予備校の代々木ゼミナールによる授業の評価の実施として項目を追加した。
- ・資格取得も学力のうちの1つであるということで、商業、英語等を中心に資格を取得してもらうということで、「資格取得の奨励」として「高い志のもと進路実現のための進路啓発及び実績」の達成方法に追加した。
- ・成果目標として「早期の進路目標決定」1年末の進路未決定者を10%以下にするということを実行に掲げた。残念ながら平成29年度の富士市立高等学校の1年生は、20%程度が進路未決定ということで、少し残念な結果ではあるが、できる限り10%以下になるよう取り組んでいきたい。

- ・「生徒の第一希望先進路実現率100%」を新たに成果目標として追加した。校長としてよく言っていることは、誰でも入れる大学に進まない、目いっぱい努力して手を伸ばして努力する目標の大学を受けるべき。同様に短大も専門学校も、誰でも入れるところに行ってはいけない、努力して手を伸ばさないと夢が届かない短大や専門学校に行きなさい。就職についても同じで、誰もが入れる就職先ではダメで、努力して手を伸ばさないと届かない会社に就職しなさいと言っている。
- ・「いじめ防止基本方針」の見直し、それから成果目標については、「いじめ・体罰の兆候を見極め、生徒との信頼関係を築き、生徒の安心安全を守る」ということで、いじめと体罰については、最終的には命に関わる問題であることから、情報をキャッチした時点で素早く委員会等会議を開いて迅速な対応をするため、その内容を達成方法に掲げた。
- ・本年度から（富士市内の）中学卒業生が毎年約100人ずつ減少していく中、現定員の生徒数を確保するため、「広報の強化」という柱を立て、市立高校の教諭等による中学校訪問、毎週1回以上の高校のホームページの更新、年10回の学校見学会の開催、ラジオエフによる放送、ニュースレターの発行等を行っていく。
- ・海外探究研修のスポーツ探究科の研修先が平成28年度までのドイツ・オランダから、平成29年度はオーストラリアに変更になった。

平成29年度学校経営計画について意見交換

- | | |
|----------|---|
| (質問・意見等) | <ul style="list-style-type: none"> ・「早期の進路目標決定（1年末の進路目標未設定者10%以下）」というところについて、1年生では進路を決められない人がほとんどだと思う。夢がある人はいいが、夢がない人はすごく置いていかれている気分になると思うが、そうした生徒たちの対応はどうするのか？ |
| (回答) | <ul style="list-style-type: none"> ・有意義な成果を出しうる者に共通している事項は、早い段階での目標設定で、それに向けて努力すべきものである。自分の将来について考えるということを示すということ、併せて高い成果を追求するために精一杯の努力をすべきこと。これは学校が教育機関として有すべき役割である。これが富士市立高校が教育機関として、生徒に向けてこうあってほしいという姿を願う姿勢である。 |
| (承認) | <ul style="list-style-type: none"> ・→平成29年度富士市立高等学校学校経営計画書 |

次回日程について

閉会